

小児循環器・周産期部門（周産期コース）専門修練医コース

概要

下記の臨床項目を自己の責任において実施でき、かつレジデント・研修医の指導ができることを目的とする。また、下記の項目の臨床研究上のテーマを自ら見出し、科学的な研究計画を立て実施できる能力を求める。

1. 循環器疾患合併妊娠の管理方針の決定と分娩管理
2. 胎児胎盤系循環異常の早期発見・管理・治療
3. 胎児病の早期発見と個々の病態にあわせた管理方針の決定
4. 産科的手術の習熟および胎児治療
5. 胎児期から連続した病的新生児、超未熟児の管理

専門医資格

日本産科婦人科学会専門医、日本超音波医学会専門医

主な検査・治療手技

	目標数
・胎児採血	10
・胎児治療、胎児治療例新生児管理	5
・胎児水腫、超未熟児、重症仮死児などの高度な新生児管理	10

研修方法

1) 臨床

- 重症循環器疾患合併妊娠の管理、救急対応の習得
- 病的胎児の管理方針の決定と治療法の習得
- 周産期異常、超未熟児に対する組織的・地域的管理の習得を習得するとともに、下記について研修を行う。
 1. 重症循環器病合併妊娠の全体的対応と緊急時の組織運営
 2. 胎児病の外科的・内科的治療
 3. コンピュータ通信技術を用いた周産期異常のマスクリーニング
 4. 動物を用いた胎児治療のシミュレーション
 5. 医用超音波により胎児循環異常、胎児心疾患診断の制度向上
 6. 病棟カンファレンスの運営
 7. 国際学会発表、欧文による論文発表

2) 臨床研究

現在の周産期医療の問題点、未解決点を自ら把握し、研究計画を実施する。具体的な方法論として下記的手段が直ちに取り得る。

1. 情報工学的手法
2. 医用超音波、カテーテル技術、診断的放射線、MR 等の利用
3. 胎児採血、胎児穿刺、胎児手術手技の利用
4. 動物を用いた病態生理学的手法

3) 患者受持

子宮内発育遅延 5 例、胎児水腫 5 例、胎児異常 5 例、重症母体心疾患 5 例、超未熟児 5 例、重症胎児仮死 5 例、双胎・多胎 3 例など

4) 検査業務

胎児・産科超音波検査、胎児採血による諸検査

5) 当直業務

週平均 1 回、土曜日曜 平均月 1 回

カンファレンス等の週間スケジュール

曜日・時間	内容
週日毎朝	症例検討会 約 1 時間
週 1 回	臨床研究・臨床統計検討会
週 1 回	部長回診